

スーパー耐久シリーズ第 3 戦 スーパー耐久レース in オートポリス 95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」、クラス 4 位完走



7 月 26 日(金)~28 日(日)に大分県日田市のオートポリス国際レーシングコース(4.674km)でENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE 第 3 戦「スーパー耐久レース in オートポリス」が開催され、95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」(山田英二/小出峻/三井優介)は、予選 ST-2 クラス 4 位から決勝をスタートし、序盤に一時クラストップを走行して表彰台フィニッシュが期待されましたが、いくつかの要因によってロスが発生。クラス 4 位で 5 時間後のチェッカーフラッグを受けました。

A/B ドライバーによる合算タイムによってスタート順が決まる公式予選では、A ドライバー山田、B ドライバー小出ともに CIVIC TYPE R 勢トップタイムをマークしています。チーム監督の原剛は、「木曜日、金曜日にも走行していますが、ここまでは順調です。第 2 戦富士ではトラブルによってリタイヤとなりましたが、今回は考える対策を施しており、ブレーキやタイヤを含め今のところ心配はない状況です。エンジンもトランスミッションも不具合の兆候はありませんが、ライフ管理データの収集を目的に予選終了後にミッションをアッセンブリー交換しています」と語っていました。

決勝レース日の 28 日は、朝から晴天に恵まれ、気温が 30 度を超す中で 11 時のスタートを迎えることになりました。95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」は小出がスタートダッシュを決め、グループ 2 のホールショットを手にします。その後も隙のないドライビングでライバルを引き離して行きました。しかし、スタートから 1 時間が経過した頃、第 1 コーナーで大きなクラッシュが発生し、セーフティカー(SC)ラップとなりました。そこでチームはピットインのタイミングを逃し、早くもピットインを済ませたライバルたちにおよそ 1 周のアドバンテージを与えることに。遅れてコースインした三井はハイペースで失地回復を試みますが、大きくジャンプアップすることは叶いません。続く山田は、ピットアウト時にピットレーンでのスピード違反を取られてドライブスルー。痛いペナルティによってここでもタイムロスを強いられています。それでもコースに戻ると力強い走りを見せ、再びアンカーの三井にバトンを託しました。その後は残り周回をリズムカルに走り、三井が 5 時間後のフィニッシュを迎えています。総周回数は 135 周で、クラストップから 1 周遅れでした。

小出峻は、「集中するところは絶対集中すると決めて臨んだので、スタートはうまく決められたと思います。その先のペースもすごく良くて、タイヤを労わりながらも後続を少しずつ離していけたので、クルマのバランスは本当に素晴らしかったです。そのまま第一スティントの流れで、次に繋げて欲しかったんですけど、そう甘くはなかったですね。チームは復帰 3

戦目にもかかわらず、ノートラブルだったしクルマは十分速さもありました。上出来だと思います。僕たちは勝ちにこだわってレースをしているので、細かいディテールの部分をもっと詰めていかないといけないし、まだまだその余地はあると思います」と語っています。三井優介も「僕のステイは、2 回とも他車と比べてペースが良かったです。特に後半に行くに従って路面にラバーが乗っていくのですが、そのコンディションにマシンが抜群にマッチしていたと思います。だからこそ、今回はピットインの選択ミスで勝負権がなくなってしまったので残念です。開幕戦よりも良いペースで走れたし、24 時間で起きたトラブルは解決しているので、今回は優勝の可能性が見えたと感じます。メンバー全員が希望を持ってレースでした」とコメントしました。

チーム監督の原剛は「正直悔しいし、もったいないレースだったと思います。ドライバーは三人とも速いペースで走ってくれましたので、SC のタイミングをミスしたことでラップダウンとなってしまったことは悔やむばかりです。今回はまったくチームの経験不足でした。暑さによる水温上昇には気を使いましたが、クルマには何の問題もなく、この暑い 5 時間を楽しめたのは収穫だったと言えるでしょう。次のもてぎは ST-2 がお休みなので、第 5 戦鈴鹿に向けてまた準備を進めます。鈴鹿もテクニカルなコーナーが多いコースなので、クルマにはマッチしていると思います」と結びました。

第 5 戦鈴鹿 5 時間レースは、9 月 29 日(日)に開催されます。